

奄美新聞

AMAMI-SHIMBUN

©奄美新聞社

1959年(昭和34年)8月5日第三種郵便物認可

2月24日 日曜日

旧暦1月15日 2013年(平成25年)

日刊/第18057号

自然守り地域発展に

瀬戸内町の森100％買収

トラスト協



日本ナショナル・トラスト協会の買収地となつた瀬戸内町の森

.....

キャンペーン参加の方法は、「一筆オーナー」「みんなの森」の2コース。「一筆オーナー」は28の区画に分けられた森の特定区画買い取り費用を一口として寄付するもの。区画の所有者にはならないが、その区画への命名権が得られる。「みんなの森」は28の区画のうち1区画となっており、任意の金額をキャンペーンに寄付するものとなっている。

土地の維持管理は樹木の伐採や開発をすることなく、森のまま保存。野生生物や生環境の調査活動、環境教育・エコツアーのフィールドとしての活用を検討しているという。

同協会の関係者事務局長は「民有林である

限り、開発の可能性はある。個人的にも奄美大島に思い入れもあり、自然を守ること、島を応援したいという気持ちがあった。これまで公共事業が中心となつた奄美の経済が、自然を守ることでエコリズムなど様々な可能性が生まれ、地域の発展につながれば」と語った。

寄付金の募集期間は6月まで。進捗状況は随時同協会ホームページ (<http://www.trustor.jp/>) で報告される。

問い合わせは ☎03-5979-8031 まで。

「アマミノクロウサギ・トラスト・キャンペーン」奄美大島の豊かな自然を守るという。北海道から沖縄まで、18のトラスト地を保全し環境保護活動に取り組み環境保護団体の日本ナショナル・トラスト協会が、アマミノクロウサギが生息する瀬戸内町の民有森約1000haを買収した。今後、寄付金を募り、保全活動や教育・エコツアーのフィールドとして活用していくという。

奄美大島の森林所有状況では、国有林6%で残る94%は民有林となっている。同団体では、乱開発の可能性を危惧し、昨秋ごろから買収を検討してきたという。地元NPO団体などを通して地域を決定、12月には現地視察にも訪れた。

森は同協会のトラスト基金で1月10日に取得。キャンペーンではその出資額に相当する2千万円を目標に企業や個人から寄付を募るという。